

病害虫防除所情報 第5号

令和4年7月22日
山梨県病害虫防除所

【イネいもち病の発生状況と防除対策について】

[発生状況と今後の見通し]

- 7月中旬に実施した病害虫防除所の水稲定点調査では、葉いもちの発生ほ場率が36.4%と平年(19.9%)より高くなっており、上位葉まで病斑が進展しているほ場も見られた(図2)。また、発病株率も11.8%と平年(6.9%)よりやや高かった。
- 今年は観測史上最速での梅雨明けとなったものの、7月に入ってからは夕立が多く、7月12日以降は曇雨天の日が目立っている。BLASTAM(アメダスデータを用いた葉いもち感染予測モデル)では、県内の複数地点で好適条件及び準好適条件が連続して出現している(表1)。今後も降雨が多い場合は、上位葉への進展や穂いもちの発生が懸念される。
- 箱施用剤の効果により、葉いもち病の発症が抑えられていたほ場についても、今後薬剤の効果切れに伴い急激に感染が拡大する恐れがあるので発生状況を確認し、適切な防除に努める。



図1 葉いもちの病斑



図2 病斑の上位葉への進展

表1 BLASTAMによるいもち病(葉いもち)感染好適日の推定結果(7月1日~21日)

	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21
大泉	-	?	?	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-
韭崎	-	?	?	-	-	●	-	●	-	-	-	-	②	-	②	●	-	-	-	-	-
甲府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	③	-	-	-	-	-	-	-
大月	-	?	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	②	②	●	-	-	-	-	●	-
身延	-	?	?	-	②	-	●	-	-	-	-	-	-	②	②	-	-	-	-	●	-
南部	-	?	-	②	②	-	●	-	●	●	-	-	-	-	②	-	-	-	-	-	-

好適感染条件	●葉面湿潤時間が8時間以上、 葉面湿潤時間中の平均気温が15~25℃ (ただし、21℃以下の場合は湿潤時間が9~15時間必要)、 前5日間の平均気温が20~25℃
準好適感染条件	①湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満 ②湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上 ③湿潤時間は10時間以上だが、湿潤時間中の平均気温が15~25℃の範囲外 ④湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い
好適条件なし	-
判定不能	?

【防除対策】

- 本田の見回りを実施し、葉いもち病の発生状況を確認する。発生が見られるほ場では直ちに治療効果のある薬剤を散布して防除を行う（表2）。発生が見られないほ場でも粒剤による防除を行う。箱施用剤を処理していないほ場では特に注意する。
- 多肥（特に窒素）ほ場や抵抗性の弱い品種（コシヒカリ等）では、本病が発生しやすいため、特に防除を徹底する。
- 本病の発生が見られるほ場では、被害を助長する恐れがあるので、追肥や中干しを行わない。

表2 主な防除薬剤

薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期	使用回数	FRACコード
予防薬剤				
オリゼメート粒剤	3kg/10a	初発10日前～初発時 (収穫14日前まで)	2回以内	P2
コラトップ粒剤	3kg/10a	初発10日前～初発時	2回以内	16.1
治療薬剤(発病している場合)				
ブラシン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	U14+16.1
ブラシンフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	U14+16.1
トライトラムフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	U16